

令和6年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(横手市)

1 市の概要(人口 81,616 人)※令和6年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和6年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
4 園	4 園	4 園	25 か所	0 園	0 園	14 校

その他:事業所内 認可外

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 各幼児教育施設において、教育・保育の質の向上に向けた研修の充実等の体制が構築されてきたが、継続実施できる体制づくりが必要である。
- (2) 幼児教育施設と小学校との連携・接続組織は構築されてきたが、その実施に温度差が見られる。
- (3) 小学校・幼児教育施設教職員等の双方における子どもの学びや資質・能力のつながりへの理解をより深めていく必要がある。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目的(3年間)

平成28年度から6年間取り組んできた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」から見えてきた成果を踏まえ、県と連携しながら幼児教育施設への巡回指導や地域での研修等を継続実施することで、教育・保育の質の向上、幼小の円滑な接続の推進への更なる充実・強化を図る。

主な内容(3年間)

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - ・市の小学校教育指導担当課である教育指導課に、指導主事1名と教育・保育アドバイザー2名を配置し、事業を実施することで、幼小接続に向けた連携を強化する。
 - ・教育指導課(小学校教育指導担当課)と子育て支援課(幼児教育保育担当課)との連携体制を確保する。
- (2) 教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援
 - ・幼児教育施設の教育・保育の質の向上を目指し、保育力向上への取組として、幼児教育施設における要請訪問を中心とした園内研修支援を継続的に実施する。
- (3) 専門性の向上のための研修の充実
 - ・幼児教育施設の教育・保育の質の向上に向けた取組として、市内幼児教育施設の課題に応じた研修会を開催する。
 - ・小学校区を中心とした近隣施設間で保育参観・協議への参加を進め、地域で学び合う体制を構築する。
- (4) 小学校教育への円滑な接続に向けた研修等の充実
 - ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続のため、育ちと学びに対する幼小相互理解を図る取組として、研修会の開催、教職員の体験事業の継続実施、幼小連携自主事業への支援を行う。
- (5) 県との連携体制の確保
 - ・県の就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会や研修会への継続参加をしていく。
 - ・県教育庁幼保推進課指導班からの助言をもとに体制の見直しを図る。

・県教育庁南教育事務所総務・幼保推進班指導主事や県教育・保育アドバイザーと共に、園の課題解決や研修会運営のための情報共有を図る。	
年度別重点	
令和4年度	事業体制を見直し、地域で学び合う体制づくりの新たな課題に向けた研修会への取組、訪問支援への取組の基盤体制づくり
令和5年度	前年度事業の課題を見直し、地域の実態に合った接続推進、訪問支援への継続実施
令和6年度	2年間の事業実施の成果と課題を明らかにしつつ、より現場のニーズに合った研修、訪問支援の強化

4 令和6年度の具体

目 的

本市において継続実施してきた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」の成果を踏まえ、県と連携しながら、幼児教育施設の教育・保育の質の向上と幼小の円滑な接続に向けた体制の更なる構築を目指す。

実施内容及び実施状況

（1）部局間連携による教育・保育推進体制の充実

- ・市民福祉部との協力による関係機関のつながりの更なる強化
 - ◇横手市子ども・子育て会議、横手市幼小接続推進協議会の事務局としての連携
 - ◇健康推進課との連携、5歳児健康相談会、「幼児言葉の教室」への通所等を通しての連携

○5歳児健康相談会で保健師が対応して気になる園児をアドバイザーが面談を通して、より詳しく観察し、必要に応じて巡回相談を勧めている。また、年長児、年中児について配慮の必要な子どもたちを中心に参観したり、担任と面談したりしながら支援を行っている。さらに、必要に応じて関係機関につなげている。年中児から園訪問をし、参観聞き取りをするとともに、日常の保育に関して有効と思われる支援・援助の情報を提供している。また、年長児については、就学児健診前に各小学校へ情報を伝えている。

●つながりの強化は図られてきているので、情報共有という点でさらに丁寧に組織的に行っていきたい。

- ・「横手市幼小接続推進協議会（架け橋期のカリキュラム開発会議）」における市一体としての具体的な取組につながる協議及び関係団体との協力強化（年2回の協議会開催と各団体との会議・研修会の協力開催）

◇第1回横手市幼小接続推進協議会開催：令和6年6月21日

【会場】横手市条里南庁舎会議室

【参加者】協議会委員（10名中8名）事務局（10名）

○今年度も、事務局に子育て支援課、健康推進課から入ってもらい、就学に際した学童保育についても話題が上がり、より子どもを支えるという視点に基づいて協議を行った。また、国が進めている「幼保小の架け橋プログラム」についても、本市のめざす子どもの姿、共通視点、具体的な今後の開発計画について共通理解と協議ができた。

●各団体での共通理解をさらに図ってもらえるよう、より働きかけていく必要がある。

◇第2回横手市幼小接続推進協議会開催：令和7年2月13日

【会場】横手市条里南庁舎会議室

【参加者】協議会委員（10名中10名）事務局（10名）

○幼保小の架け橋期のカリキュラムについての開発推進状況を共有し、協議を行った。

(2) 教育保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援

- ・教育指導課に教育・保育アドバイザー2名の継続配置
- ・「公開保育研修会」の継続実施による園同士の学び合いの場作り
- ・要請訪問を中心としつつ、各幼児教育施設の実態に応じた継続訪問
- ・計画や資料作成、当日の保育や園内研修についての事前相談
- ・保育後の振り返り、研修後の振り返りを重視し、その後の保育に活きる訪問
- ・保育士等との面談、気になる子どもの保育やその保護者への対応、幼小接続についてなど園のニーズに応じた随時訪問の継続
- ・支援が必要な子どもについて幼児教育施設と保健師、関係諸機関、小学校との結び付きをコーディネート

◇令和6年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（横手市）

派遣実績 計 54 施設／全 54 施設 604 回	
回数	・幼稚園：私立4園（60回） ・保育園：公立3園（41回）、私立22園（342回） ・幼保連携型認定こども園：私立4園（56回） ・その他の施設：（へき地保育所 園（ 回）児童館 か所（ 回）、小規模保育施設 か所（ 回）、認可外保育施設3か所（28回）、事業所内保育施設 2か所（20回）） ・小学校：14校（57回）
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画）（目標のうち、33園（46回）） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備）（目標のうち、6園（7回）） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等）（目標のうち、1園（4回）） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査）（目標のうち、1園（2回）） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明）（目標のうち、38園（396回）） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化）（目標のうち、3園（3回）） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等）（目標のうち、14校（18回）） ・特別支援（相談、面談等）（目標のうち、38園（128回））
理由	要請訪問の事前に訪問し、研修内容や公開保育の指導計画等で助言を丁寧に行った。公開保育については、施設の力で行えるケースが増加したため、だいたいが数が減少してきた。特別支援についての相談、面談等はその分、ニーズが増えている。

○事前訪問を通して、市として目指したい研修内容や方法について具体的にアドバイスすることができた。また、担任との振り返りも、午後の協議に向けての課題を見付ける場としても効果的であった。さらに園長・主任等との振り返りにより、自園の職員のよさを価値付けたり、今後への期待を持ってもらったりする機会となっている。

○ほぼ全ての園で公開保育を行っており、小学校を交えて地域で学び合う体制作りが強化された。

●要請訪問を保育者自身が実際の保育の課題を見つめ直す機会にしたり、チームでよりよい保育を考えていこうという研修にしたりすることが次のステップとなる。支援が必要な子どもを中心にした研修になると、場当たりの保育改善につながりやすいところもあり、よりインクルーシブな視点ですべての子どものめざす姿のための保育を研修していきたい。

(3)「専門性の向上のための研修の充実」

- ・テーマや年齢層など対象を絞った、短時間での研修を企画・運営

◇第1回横手市保育実践力向上研修会：令和6年5月22日

【会場】横手市条里南庁舎講堂

【参加者】市内幼児教育施設職員（園内研修をリードする職員、ファシリテーターについて学びたい職員）

32名

【内容】講義・演習「参加者の学びを深めるファシリテーション
～ファシリテーターは準備が肝心～」

秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 佐藤 伸剛 氏



実際の園内研修をイメージして

☆参加者の感想

ファシリテーターとしての経験がなく、どのように進めていけばよいかわからなかったが、この研修で学んだ「事前の準備」をしっかり行い、見通しをもってファシリテーターとしての役割を担っていきたいと思った。また、多数の意見ばかりではなく、限られた意見も大事であること、どこを深めていくのかを見極められるようにになりたいと思った。

◇第2回横手市保育実践力向上研修会：令和6年6月14日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】市内幼児教育施設職員

（研修リーダー）21名

【内容】講義・演習「各園の特色を生かした研修計画を～保育はチームで～」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

☆参加者の感想

他園の先生方から研修計画について話を聞くことで、「そのような方法もあるんだ！取り入れてみようかな」と思うところが見つかってよかった。タイムマネジメントがすごく大事だなと思って講義を受けた。一人一人の研修が園全体へと広がり、園全体がよりよくなるように、研修報告の仕方等検討したいと思った。

◇第3回横手市保育実践力向上研修会：令和6年9月27日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】市内幼児教育施設職員

（採用5年目までの若手）27名

【内容】講義「乳幼児教育・保育の仕事を
より楽しんでいくために」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

演習 レッツ！トーク



悩みや課題について互いの意見を

交流し合う話し合う

☆参加者の感想

保育者一人一人が子どもにとって大きな環境であり、自分自身の健康や一緒に楽しむ表情が子どもにとって大きく影響することが改めてわかった。時間に余裕がもてなくなることがないように、見通しをもって優先順位を整理しながら気持ちの面でもゆとりをもてるようにしたいと感じた。

○各施設から参加があり、日々現場で感じていることを同年代の保育者同士で話し合う機会は貴重であると感じた。また、保育も含め物事の感じ方や相手とのコミュニケーションに難し

さを感じている実情がわかり、より保育者に寄り添って支えていくことが大切であると感じた。

- これが最善ということを言い切れない、それぞれのケースに応じることの多さに、より日常の中で力になることが必要と感じる。

◇第4回横手市保育実践力向上研修会実施：令和7年1月17日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】第1回研修受講者及び研修希望の幼児教育施設職員 35名

【内容】講義・演習「参加者の学びを深めるファシリテーション

～次の実践にどう結びつけるかが肝心～」

秋田県教育庁南教育事務所 主任指導主事 佐藤 伸剛 氏

☆参加者の感想

第1回の研修会で学んだことをもとに、自園でファシリテーターとして実践を行い、今回はそれを振り返ることができた。他園の先生方とも話し合うことで、また次の実践に向けて活かすことができると感じた。

（4）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・幼小教職員の合同研修会の継続開催

◇横手市幼小合同研修会：令和6年8月19日

【会場】十文字地区交流センター交流ホール

【参加者】幼小接続の中心となる

小学校教職員 14名

幼児教育施設職員 30名

【内容】講義「架け橋期のカリキュラム開発に向けて」

横手市教育委員会教育指導課

指導主事 小川 由美子

演習 カリキュラム作成に向けた協議



視点に基づき、カリキュラム作成に向けて

協議し合う

☆参加者の感想

校区で話し合うことで、子どもたちを思い浮かべ、実感を込めて検討することができた。今後も情報の共有や架け橋期につながる手立てを相談する機会を大切にしていきたい。

架け橋期のカリキュラム開発について、プロセス等の理解が深まったような気がする。カリキュラムを完成させることをゴールとせず、そのプロセスを大切にしていきたい。

○昨年度からの継続でカリキュラム開発に向けた具体的な研修となった。共通の4つの視点について、どの小学校区も協議し合っていた。昨年度にプラスしていくことで、より多面的な意見を盛り込むことができた。今後、紙面にしていくことに向けた取組を計画的に進めていきたい。

- ・小学校区での職員体験事業継続実施

◇小学校教職員参加者 33名

幼児教育施設職員 30名 参加

☆体験報告書より（小学校教諭）

子どもたち自身が遊びたいものや作りたいものを選んだり決めたりする場面が多く、子どもが主体的に楽しんで活動していた。また、活動環境が意図的に設定されていて「自ら学ぶ子どもの育成」につながっていると感じた。



保育士による小学校職場体験

○長く体験事業を継続してきたが、小学校教職員の子どもの姿を見る目、環境構成をつながりとして見る目で変化を感じる。「自ら学ぶ子どもの育成」という目指す子どもの姿に向けて、市全体で進んでいることを感じる。

・互いの授業参観・保育参観の継続

○地域ごとの要請訪問、計画訪問を活用した互いの研修へ、よりたくさんの先生方が参観し合い、協議まで参加し合うことが多くなってきた。

●他園での学びを自園で、または小学校でどう広げることが次の課題となっている。協議で模造紙にまとめた足跡を幼小で交換し合うことも一つの方法になるであろう。

・各小学校区での幼小連携委員会への参加と事業への支援

○それぞれの連携委員会へ参加したことで、書面ではわからない実情がよくわかった。それを踏まえて、他校区の事例を紹介したり、合同研修会で行った架け橋カリキュラム開発の内容を伝達したりしていくことで、さらなる連携事業を推進していくことができた。

●年度末の連携委員会にも参加し、カリキュラム開発の計画を示しつつ、幼小接続の目指すべきところの理解をより広げながら、各小学校区で歩調を合わせ進めていく。

・横手市幼小連携だより「よこてのめんこ」の定期発行（月1回）

○昨年度からスタートした幼小の教職員のリレーコラムも好評である。アドバイザーが作成した紙面を幼児教育施設（40）と小中学校（20）へ配布している。その際、日常の保育、教育について話題にしながら、課題解決につなげる努力を継続している。

（5）「県との連携体制の充実」

・県主催の協議会・研修会、事業実施市主催研修会への継続参加

・県の指導を仰ぎながら事業体制の見直し、継続強化

・県要請訪問への同行訪問

・「市アドバイザーに学ぶ会」の継続実施と参加

◇令和6年10月17日：明照保育園（関係者5名の参加）

◇他市町村にも参加（仙北市、大館市、大仙市、男鹿市）

○年度始めに南教育事務所指導主事と訪問について協議し合う場をもったことで、方向性や内容について助言をいただき、それをもとに具体的に実施することができた。また、年度途中でも、訪問した際の園の様子について共通理解することができ、訪問する際の見通しをもつ機会となった。

○他市町村の実践を参考にしながら、研修、訪問を進めることができた。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和6年)の成果と課題

○地域の公開保育研究会の開催がさらに広がり、幼小の接続、幼児教育施設同士の横のつながりがより強まった。園内研修が定着してきた中で、さらに他園の研修会でも学び合うという基盤が広がってきている。小学校教職員の協議会への参加も増えてきた。

○研修会を基本にして、今年度の園内研修が進められており、各園の訪問でもそこに合わせた指導助言をすることができた。事前のアドバイザーの訪問が研修の焦点化を図ることもつながっている。架け橋カリキュラム開発に向けた幼小合同研修会も継続して開催でき、理解を深めてきている。

●研修会や公開保育等の開催回数が増えることと、そこへの参加が負担感にならないかを危惧している。持続可能な実施を心掛けていきたいし、内容面についても無理のないものにしていきたい。

●他市町村のカリキュラム開発への取組が素早く、焦ってしまう感覚に陥った時もあったが、やはり開発・作成の完成が架け橋プログラムのねらうところではないと改めて感じている。あくまでも幼小の職員・行政・保護者・地域も含めた大人が、架け橋期子どもたちについて、考え、話し合うプロセスを大事にしていきたい。さらには、カリキュラム開発に向けての協議が、本来の教育・保育の改善（質の向上）につながる手立てをしっかりと示しながら、継続し続けていきたい。